

## 俳壇・歌壇欄

大塚晴惟

買い初めの木彫の仏笑み妖し  
寒風に相撲幟の張り手攻め  
来し方に手足を伸ばす初湯船  
早春の日差しあまりて海光る  
窓外に烈風のある初暦  
ポストまで犬と競えり春一番  
黒人の僧佇立せり冬日和  
ひとときの励みに似たり花ふぶき  
薄日さすことを寒がり春の風邪  
騎馬巡查夏めく街の空があり  
たこ焼きの屋台貧しく花の下  
急患の処置終えし窓走り梅雨  
ほの白き夜桜の果て闇に溶け  
ホームへの一段ごとの梅雨晴間  
墓石屋の幾何学模様花曇り  
球打てば鞍掛山に青嵐  
踏切は開かず西日の立ち止まり  
ワイパーの形の町の梅雨静か  
梅雨明けに突如ラッパの大音響  
子の叫びはじける水の梅雨晴間  
犬の耳立ちて遠雷たしかなり  
秋の夜の手擦れし辞書を繕いぬ  
黄檗山堂塔薄暮法師蝉  
新しき入れ歯の媪夏羽織  
気も晴れて鎌倉山の草紅葉  
綿入れの老婆鎮座す震度4

(特別会員・医学博士)